

# かすが



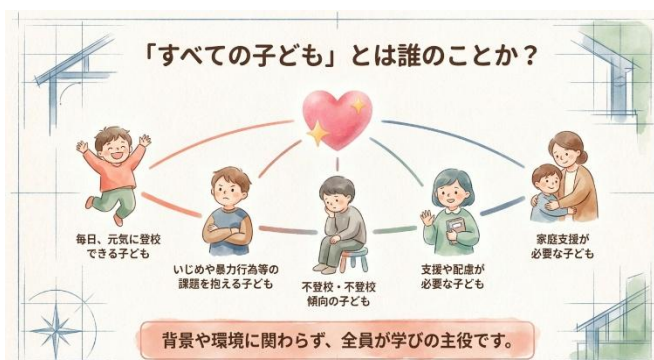
すべての子どもが 仲間とともに いきいきと学べる 春日小学校

個人懇談会では、保護者の皆様と1学期間のお子さんの学習状況や学校での様子等について、話し合う良い機会となりました。お忙しい中、ご来校いただき、ありがとうございました。また、「レベル3大雨警報」の対応についても、ご協力いただき、ありがとうございました。

さて、以下の内容は、今年度当初、春日小として何に重点をおいて取り組んでいくのかをお示したものです。1学期間、学校と家庭・地域がどのように連携して子ども一人ひとりの成長に向けて取り組めたのか、ふりかえりたいと思います。そして、2学期からの学校運営や教育活動等に活かしていきたいと考えています。

## 令和8年度に重点的に取り組むこと・・・

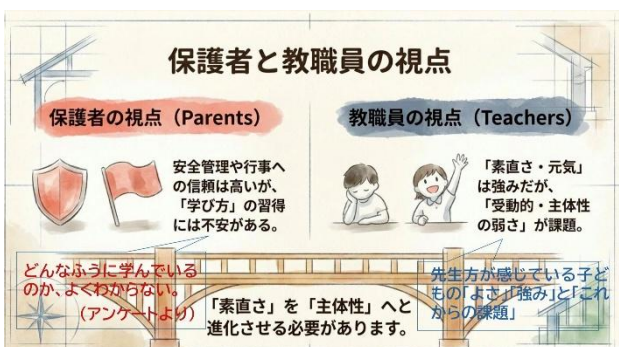
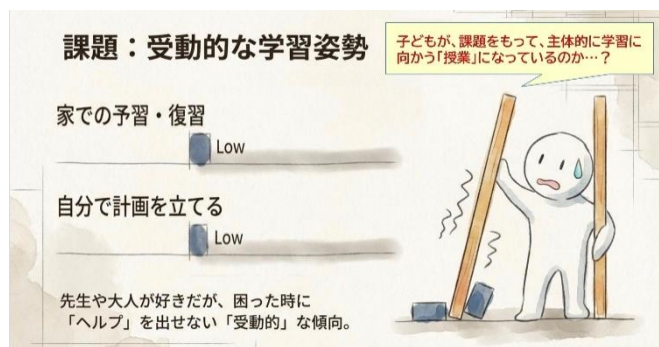
まず、大前提として、410人の子どもたちが、「安全・安心」の環境の中で学習や様々な取組・活動を自分なりに精一杯取り組めることが基本。自分のことだけでなく、まわりにいる友だちや仲間の安全・安心も守ることが大前提です。



そもそも、「すべての子ども」とは春日小学校に在籍している子どもたち、みんなのこと。

すべての子どもの「安全・安心」が守られることが大前提！

\*今年度、学校が「がんばること」



主体的に学ぶ子どもに。「させられる」ではなく、「自分から進んで取り組む」学習活動へ。

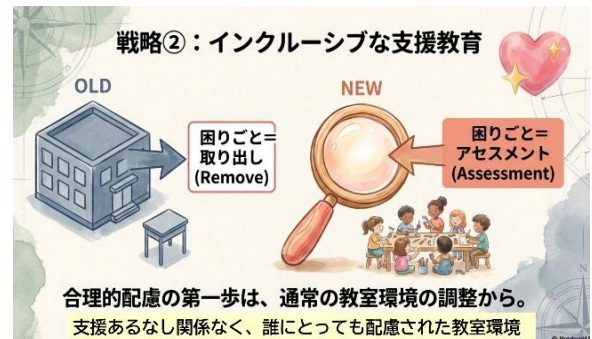
先生たちの「がんばり」「取組」を保護者や地域の皆様に、もっと知っていただく。

\* 「がんばること」を実現するために、伸びしろを伸ばすために… (具体的な方策)

「読み書き計算」の生活に必要な基本的な学力や点数で見える学力(知識・技能)だけでなく、学んだことや身に付けたことを活かして、いかに自分らしく生きるのか、周囲の人と協力して生きていくのか、10年後、20年後も見据えて豊かに生きていく「生きる力」(点数で見えない力)を身に付けさせていきます。



①安心して「わからない」「教えて」が言える環境で仲間と主体的に学ぶ授業づくり。



②すべての子どもが安心して学習できる「合理的配慮」のある教室(学びの)環境。



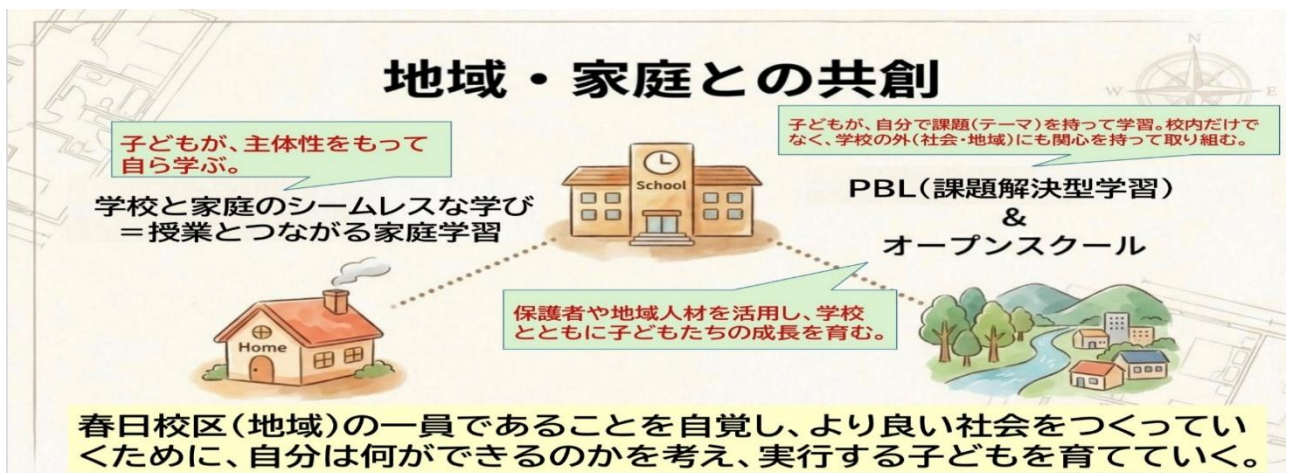
③互いを尊重しあう仲間・集団づくり。



④先生たちも失敗を恐れずチャレンジ!

そのために、

「ゼロ」ベースではなく、これまで積み上げてきた学校の「強み」「良さ」、そして「伝統」の上に、さらに積み上げていくイメージで・・・



「春日校区で生活している子どもたち」という観点から、保護者の皆様や地域の皆様との「つながり」は、とても大切です。学校に限定せず、「社会生活」を営む私たち一人ひとりが、「自分事」として捉えるとともに、「相手意識」をもって取り組んでいけるよう、それぞれが持つ「よさ」「強み」「もちあじ」を大切に、連携していきたいと考えています。



2学期からも、このことを意識し、保護者の皆様や地域の皆様とともに、子どもたちの健全な育成を図ってまいります。これまで同様、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

### 「学校教育アンケート」へのご協力をお願いします

今年度、1回目のアンケートを実施中です。個人懇談期間中、教室にも QR コードを掲示していました。まだの方は、右の QR コードを読み取っていただき、回答をお願いします。アンケートの結果をもとに、今後の学校運営や教育活動の参考とさせていただきます。どうぞ、よろしくお願いいたします。



なお、子どもたちにもタブレット端末を活用し、アンケートを実施しています。こちら、結果を分析し、子どもたちが、今、どのように感じているのかについて客観的に分析し、今後の授業づくりや仲間・集団づくり等に活用してまいります。

### 「学校いじめ防止基本方針」 ← 学校ブログに掲載しています

いじめは、「重大な**人権侵害事象**」です。

学校では、様々な場面において、子どもたちの「やった」「やられた」ということが起こっています。「やられた」側は「被害者」で、「やった」側が「加害者」ですが、**多くの場合において、一方的ではなく、お互いに「やった」「やられた」という関係性**です。だからこそ、大人(学校も、家庭も)は、子どもたちの言動に対して、敏感であることが大切です。かつ、子どもが発する「**SOS**」を、機を逃さずにキャッチして、話を聞いたり、状況を観察するなどの「丁寧な対応」が必要です。また、多くの子どもが自分にとって「都合の悪いこと」を、進んで話さないこともあります。中には、相手に「嫌な思いをさせた」と気づいていない場合もあります。だからこそ、「丁寧な対応」が必要なのです。



人KENまもる 人KENあゆみ

学校は、いじめ等の事案が起こった場合、この方針やマニュアルに従って対応します。いじめを受けた子どもを守るとともに、いじめをした子どもへの教育的な指導・支援を行います。いじめは、「いつでも、誰にでも起こりうる」ものです。昨日、被害と加害の関係だった者同士が、今日は反対の立場になっている場合もありますので、常に冷静に、平等に対応しています。何より、子どもたちが互いの「よさ」や「ちがひ」を知り、認め合う仲間・集団であることを大切にしています。保護者や地域の皆様においても、これらの点をふまえて対応いただくとともに、子どもたちの健全な育成をめざしてご協力いただきますよう、よろしくお願いいたします。

## 通級指導教室 と なかよし学級



学級の仲間と一緒に学習活動に取り組むだけでなく、必要に応じて、別の教室で個別や少人数で取り組み、必要な力を身に付けることをめざす場が、通級指導教室やなかよし学級です。場に応じた言葉づかいや態度を学んだり、現在の学年より下の学年の学習内容を学んだりするなど、その子に応じて支援・指導します。お子さんの学校での様子や友だちとのかかわりなど、気になることがありましたら、本校には3人の**支援教育コーディネーター（なかよし学級担任2人と通級指導教室担当1人）**がおりますので、ご相談ください。（もちろん、学級担任の先生を窓口にしていただいてもかまいません。）

ここで改めて確認しておきたいことは**「学級での学習を個別に指導する場ではない」**ということです。例えば、「漢字が覚えられない」「計算ができない」「文章の意味を理解できない」「算数の文章問題が苦手なようだ」等、主に国語と算数の学習における「つまづき」を理由に、支援学級への入級を希望する場合がありますが、「〇〇ができない」ということだけで、支援学級に在籍するのかどうかの判断はできません。

\*なぜ、漢字が覚えられないのか？文字を捉える視覚的・空間的な認知等に課題があるのか？

\*なぜ、計算ができないのか？数の概念等を身に付けられないなどの課題があるのか？

\*なぜ、文章の意味ができなかったり、算数の文章問題が苦手なのか？言葉を覚えるなどの学習することそのものに課題があるのか？

等、**「なぜ」を明らかにすることが重要**です。

これらの課題やこまっていることを克服するために、支援学級等では、特別な教育課程を編成して（つまり、〇年〇組の子どもたちとは別の教育プログラムを編成して）、個に応じた支援や指導を行います。そのため、通常の学級で行っている授業内容を行わないことも前提となります。そのため「漢字が覚えられない」「計算ができない」等の状況だけでは、支援学級に在籍するのかわりに判断ができないのです。支援学級への入級に際しては、これらのことについても、学校と家庭でしっかりと相談させていただきたいと考えています。



子どもたちの居場所（＝社会）は、年齢とともに、どんどん広がっていきます。その中で、お子さん自身が「こまっていること」、また、保護者の皆様がお子さんに対して、「気になること」「こまっていること」は、はやい段階で対応していくことが大切です。「できる」「できない」という結果だけでなく、「こまっていること」にどう向き合うのか、どうすれば、少しでも「こまっていること」が解消されるのか、学校と家庭が連携して、一緒に考えていきましょう。どうぞ、よろしくお願いします。

\*別添の「お子さまのよりよい学びの場にむけて」（在校生用）も参考にしてください。

いつもピカピカで、「ありがとう！」が学校中にあふれる春日小学校